

令和3年度(2021年度)

管理事業名	高齢者生きがい事業			総合計画の体系	大綱 3 福祉・健康 政策 1 高齢者の暮らしを支えるまちづくり 施策 1 生きがいづくりと社会参加の促進
主な歳出予算科目	一般会計	(款) 3	民生費	(項) 1	社会福祉費 (目) 3 老人福祉費
部局名	福祉部	予算執行所属	高齢福祉室・福祉総務室		
予算大事業名	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名				
事業の目的と概要 (1)目的 高齢者を迎えても生きがいをもって、地域で健康に暮らすことができるよう、生涯学習やスポーツなどを通じた生きがいづくりの活動や就労、地域活動などの社会参加への支援を進めます。 (2)概要 ・高齢者の生きがいづくり及び福祉の増進を図るため、高齢クラブ・地区敬老行事運営委員会等の活動を支援します。 ・高齢者生きがい活動センター、高齢者いきいの家、高齢者いきいの間等の施設を運営します。 ・地区福祉委員会が年4回を超えて実施したふれあい昼食会の一部に対して、(福)吹田市社会福祉協議会を通じて助成します。					

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標の定義
高齢者生きがい活動センター講座 開催回数	回	195	78	210	高齢者生きがい活動センターの講座 年間開催回数
シルバー人材センター会員数	人	2,050	1,966	1,921	(公社)吹田市シルバー人材センターの年間延会員数
成果の説明	・高齢者生きがい活動センターについて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、約4か月休館したものの、主催講座及び自主講座の開催回数を伸ばし、感染対策を講じながら、高齢者の教養向上等に積極的に取り組むことができました。 ・シルバー人材センターの年間延会員数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入会説明会の開催自粛・定員削減をしたことで会員数が減少しました。しかしながら、感染対策を講じながら会員の研修会等を積極的に行い、高齢者の社会参画の促進、会員の技術向上が図られました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	令和元年度	令和2年度 A	令和3年度 B	差額 B-A
経常収入				
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
国庫支出金(経常費用充当)	-	4,168	4,066	△102
府支出金(経常費用充当)	6,725	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	701	602	486	△116
経常収入 小計(a)	7,426	4,770	4,552	△218
給与関係費	56,314	43,496	37,349	△18,965
物件費	75,989	58,640	67,995	9,355
維持補修費	1,362	1,249	3,395	2,147
社会保障扶助費	580	480	360	△120
負担金・補助金・交付金等	89,571	43,965	74,781	30,816
特別収入				
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別支出				
特別支出 小計(e)	-	7,455	-	7,455
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	△7,455	-	7,455
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△275,279	△176,756	△206,954	△30,198
一般財源充当額	232,912	181,373	207,522	26,150
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△42,367	4,617	568	△4,049

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
物件費	新型コロナウイルス感染症対策のための高齢者いきいの間エアコン整備費4,286千円(皆増)、新型コロナウイルス感染症拡大防止策緩和に伴う福祉バス貸付料4,509千円(4,143千円の増)
負担金・補助金・交付金等	新型コロナウイルス感染症拡大防止策緩和に伴う地区敬老行事事業運営補助金38,613千円(皆増)

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	令和元年度	令和2年度 A	令和3年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	7,426	4,770	4,552	△218
行政サービス活動支出	234,012	159,402	193,270	33,868
行政サービス活動収支差額	△226,587	△154,632	△188,717	△34,086
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	8,595	-	△8,595
投資活動収支差額	-	△8,595	-	8,595
財務活動収入	11,800	-	-	-
財務活動支出	18,125	18,146	18,805	659
財務活動収支差額	△6,325	△18,146	△18,805	△659
収支差額 合計	△232,912	△181,373	△207,522	△26,150
一般財源充当額	232,912	181,373	207,522	26,150
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	新型コロナウイルス感染症拡大防止策緩和に伴う地区敬老行事事業運営補助金38,613千円(皆増)
----------	---

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
65歳以上高齢者1人あたりコスト	令和元年度	89,136 人	3,172 円	令和4年3月31日現在の吹田市65歳以上人口で算出し、令和3年度は1人あたり、2,348円のコストがかかっています。
	令和2年度	89,694 人	1,941 円	
	令和3年度	90,049 人	2,348 円	
	令和元年度		円	
	令和2年度		円	
	令和3年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	令和2年度末 A	令和3年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和2年度末 A	令和3年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	22,289	21,956	△333
未収金	-	-	-	地方債	1,642	2,301	659
財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	3,484	2,492	△992
徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	1,413,645	1,387,935	△25,710	その他流動負債	17,164	17,164	-
土地	910,935	910,935	-	固定負債	221,122	195,153	△25,969
建物・工作物	494,115	477,000	△17,115	地方債	18,044	15,744	△2,301
リース資産	-	-	-	長期借入金	-	-	-
建設仮勘定	8,595	-	△8,595	退職手当引当金	31,442	24,938	△6,504
無形固定資産	294	271	△23	リース債務	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	その他固定負債	171,635	154,472	△17,164
土地	-	-	-	負債の部合計	243,411	217,109	△26,301
建物・工作物	-	-	-	純資産	1,170,528	1,171,097	568
建設仮勘定	-	-	-	重要物品	-	-	-
重要物品	-	-	-	図書館資料	-	-	-
図書館資料	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	出資金	-	-	-
出資金	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	基金	-	-	-
基金	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	その他債権	-	-	-
その他債権	-	-	-	資産の部合計	1,413,939	1,388,206	△25,733
資産の部合計	1,413,939	1,388,206	△25,733	負債及び純資産の部合計	1,413,939	1,388,206	△25,733

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

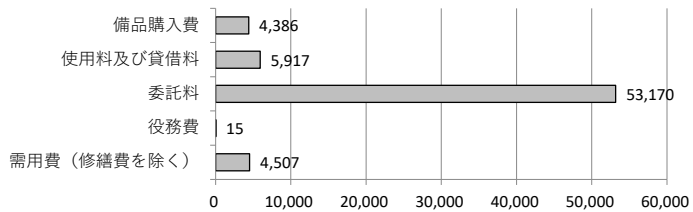
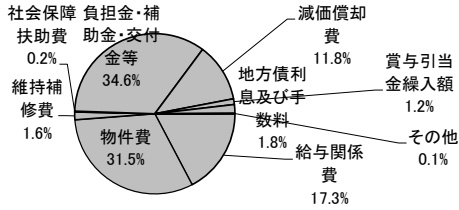
	常勤・再任用 月平均	会計年度任用等 年間従事延日数	特別職非常勤 年間従事延日数	合計(千円)
事業従事人数	4.3 人	242 日	20 日	
給与関係費等	32,436 千円	2,835 千円	168 千円	35,439
内、時間外勤務手当	3,771 千円			

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	高齢者いきいの間、高齢者いきいの家、シルバーワークプラザ及び高齢者生きがい活動センターの減価償却により24,946千円の減
建設仮勘定	シルバーワークプラザ1階系統空調設備更新工事の建設仮勘定精算により8,595千円の減

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	高齢者いきいの間 ほか
取得年月日	昭和56年(1981年)5月1日 ほか
建物・工作物の取得価額	1,102,946 千円
建物・工作物の減価償却累計額	625,946 千円
利用料金収入	- 千円

▽分析指標

(単位:%)

分析指標	令和元年度	令和2年度 A	令和3年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率	0.1	0.1	0.3	0.2
施設老化比率	53.0	54.8	56.8	2.0
受益者負担比率	-	-	-	-
徴収不能引当率	-	-	-	-
一般財源充当比率	92.4	97.4	97.9	0.5
経常費用対公共資産比率	25.2	15.9	19.2	3.3

【参考:市保有施設全体の老化比率は57.6%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

・経常費用の約2億1千万円のうち、負担金・補助金・交付金等が34.6%、物件費が31.5%、給与関係費が17.3%を占めており、高齢者いきいの家指定管理料が16,165千円、高齢者生きがい活動センター指定管理料が11,940千円となっています。
 ・減価償却により資産(建物)が減少しています。建物の老化比率は56.8%となっており、市保有施設全体の老化比率(57.6%)を0.8ポイント下回っています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

限りある財源で計画的かつ効果的に維持補修を行うため、修繕や備品更新を計画立てて行っていますが、既存施設の老化に伴う費用は今後も増加するものと考えており、より効率的・効果的に維持補修を行っていく必要があります。また、今後も高齢化の進展とニーズの多様化に伴い、経常費用は増加するものと考えられます。引き続き、費用対効果の検証と正確なニーズの把握を行い、持続可能かつ市民満足度の高い事業実施となるよう事業の在り方を検討していく必要があります。